

# AWARE がウェブサイトの日本語セクションを開設

AWARE: Archives of Women Artists, Research & Exhibitions は設立10周年を記念し、ウェブサイト日本語セクションを開設いたします。これは、当協会の活動の幅と国際的な広がりを反映しており、学術的・教育的なコンテンツをより多くの人々に紹介することを可能にします。

## AWARE-日本

AWARE: Archives of Women Artists, Research & Exhibitionsは、2014年に設立された非営利団体です。創設者のひとりでディレクターを務める、キュレーター兼美術史家のカミュー・モリノーは「女性のアーティストは存在しない、あるいは非常に少ないという固定概念のために、あまりに多くの時間が失われてきました。今日、その存在は無視できなくなり、これまでとは異なる言葉、異なる運動、異なる前衛的な手法を用いて異なる物語を書くよう、私たちに促しています」と語ります。AWAREはさまざまな国や地域を扱うチームを組み、18世紀、19世紀、20世紀の女性アーティストたちを可視化するため、彼女たちの功績についてのコンテンツをフランス語と英語の2ヶ国語で作成し、ウェブサイト無料で公開しています。AWAREは、世界中の500人以上の研究者、キュレーター、フェミニスト美術史家、美術評論家やアクティビストによって書かれたテキストを通して、多様な声を代弁しています。このウェブサイトのデータベースは1664年から1974年の間に生まれ、視覚芸術の分野で活躍する女性およびノンバイナリーのアーティストを、表現媒体や国の制限なく集めています。研究記事とイ... 続きを読む

### 最近公開された作家



小倉 遊亀  
1895 | 滋賀県生まれ  
2009 | 東京都にて逝去



島 成園  
1892 | 大阪府堺生まれ  
1970 | 兵庫県淡路市にて逝去



上村 松園  
1875 | 京都府生まれ  
1949 | 奈良県にて逝去



三岸 節子  
1905 | 愛知県生まれ  
1999 | 神奈川県にて逝去

### 研究論文



#### 2024年4月27日 | 嶋山由季子 日本における洋画の歴史と明治から戦前にかけての女性洋画家たち

日本で近代化＝西洋化が推し進められた19世紀後半、美術の分野においても、西洋の概念や技術が急速に取り入れられた。その過程で、「美術」や「絵画」「彫刻」「工芸」といった言葉も、西洋概念の翻訳として成立... 続きを読む

“AWAREの10周年を記念して、私たちのウェブサイトには3つ目の言語を追加するのはこびとなりました。並外れた洗練と歴史を持ち、これまで、そして現在も多くの女性アーティストが生きてきた日本という国と文化に、私たちの活動の幅を広げることができることを大変誇りに思います。日本に関わる活動は、広範かつ長期的なプロジェクトの一環であり、現地のパートナーや専門家との協働によるものです。この新しいセクションの開設は、私たちの国際関係をより豊かなものにしてくれることでしょう。”

カミュー・モリノー  
エグゼクティブ・ディレクター AWARE

AWAREのウェブサイトはこの10年間で、1,200人におよぶアーティストの略歴や世界中の500人以上の研究者、キュレーター、美術史家によるテキストを掲載し、そして毎月10万人以上のアクセスを誇る、唯一無二のリソースとなりました。本ウェブサイトは年代的・地理的に広範囲に対応しているだけでなく、提供するコンテンツやマルチメディアの多様さにおいても、専門家および一般の人々にとっても有益なツールとなっています。AWAREはまた、女性アーティストやジェンダー研究についての研究を普及させるため、協会の拠点であるヴィラ・ヴァシリエフや、国際的な機関、大学、美術館、その他の独立した組織と提携して、シンポジウム、座談会、セミナーを開催しています。

この新たな日本語セクションは、日本のアーティストを発見するための入口であり、新たな読者にとってもウェブサイトに掲載しているアーティストの略歴や記事へアクセスしやすくするものです。このセクションは、日本の専門家や機関との協力のもと過去4年間に行われた「19世紀から21世紀の日本の女性アーティスト」、「TEAM: Teaching, E-learning, Agency, Mentoring」、「女性アーティストとニューメディア」といったプログラムを基に生まれました。

このウェブサイトでは、1975年以前に生まれ、視覚芸術の分野で活躍する女性アーティストを、媒体にとらわれず紹介します。日本画家の片岡球子、ビデオアートのパイオニア出光真子、現代美術家の内藤礼など、多様なアーティストの略歴を紹介するAWAREプラットフォームは、日本の女性アーティストがあらゆる芸術運動や時代に存在してきたことを示しています。研究論文は、これらのアーティストのキャリアや作品をより大きな芸術運動、社会的変化、およびフェミニズムの考え方の中で文脈づけることで、より深い理解を可能にするものです。

AWAREは非営利団体です。AWARE: Archives of Women Artists, Research & Exhibitionsの日本語セクションは、ペル・アルドゥア・アド・アストラ基金の寛大な支援により創設されました。



谷口 富美枝

1910 | 東京都生まれ  
2001 | カリフォルニア州ロサンゼルスにて逝去



石内 都

1947 | 群馬県桐生市生まれ



長谷川 春子

1893 | 三重県桑名市生まれ  
1967 | 東京都にて逝去



金 聖蘭

1960 | 滋賀県生まれ



富山 妙子

1921 | 兵庫県神戸市生まれ  
2021 | 東京都にて逝去



嶋田 美子

1959 | 東京都生まれ



秋野 不矩

1908 | 静岡県天竜市生まれ  
2001 | 京都府南丹市にて逝去



片岡 球子

1905 | 北海道札幌市生まれ  
2008 | 神奈川県にて逝去



出光 真子

1940 | 東京都生まれ

## プログラムについて

### 19世紀から21世紀の日本の女性アーティスト

「19世紀から21世紀の日本の女性アーティスト」は、日本における女性アーティストの活動と、その世界的な文化史への貢献に焦点を当てることを目的とした4年間の研究プログラムです。本プロジェクトには、現代美術、写真、日本画、洋画、そして女性アーティストを研究する専門家からなる委員会が伴走し、ジェンダーの角度から日本のアートシーンの多様性を示します。

本プログラムのアドバイザリーボードは下記のメンバーで構成されています。

片岡真実(森美術館館長)、笠原美智子(長野県立美術館館長)、小勝禮子(研究者、美術史家、美術評論家、元栃木県立美術館主任学芸員、「アジアの女性アーティスト:ジェンダー、歴史、境界」創設者)、鶴見香織(東京国立近代美術館主任研究員)、横山由季子(東京国立近代美術館研究員)。

本プログラムはカルティエによる助成を受けています。

### 女性アーティストとニューメディア

この複数年にわたるプロジェクトは、国際的なアプローチで、特に日本に焦点を当てながらニューメディアにおける女性アーティストに関するオンライン・リソースを構築し、イベントを開催することを目的としています。1960年代から1990年代にかけて、ビデオアートやアルゴリズム、デジタルワールド、テクノロジーを広義の意味で実践し、関わってきたアーティストに着目します。これらの分野における女性の存在に焦点を当て、その系譜を再構築し、今日のサイバーフェミニズムの考察につなげることを目的とします。

本プログラムのアドバイザリーボードは下記のメンバーで構成されています。

カレン・チャン(サンフランシスコ近代美術館[SFMOMA]メディア部門キュレーター)、ソランジュ・ファルカス(Videobrasil)、オウリマタ・ゲイエ(リヨン国立高等美術学校[ENSBAリヨン]キュレーター、教授)、片岡真実(森美術館館長)、ダリア・ミル(カールスルーエ・アート・アンド・メディア・センター[ZKM]キュレーター)、ラッタナモル・シン・ジョハル(ニューヨーク近代美術館[MoMA]国際プログラム・アシスタントディレクター)、四方幸子(キュレーター、美術評論家)、イ・スジョン(韓国国立現代美術館[MMCA]キュレーター)

本プログラムはペル・アルドゥア・アド・アストラ基金による助成を受けています。

### TEAM: Teaching, E-Learning, Agency, Mentoring

TEAM: Teaching, E-Learning, Agency, Mentoring は、2020年に設立された国際的な学術ネットワークであり、女性アーティストに関する学術的リソースを収集・出版し、美術史における平等の問題について新たな世代の研究者を育成することを目的としています。TEAMはまた、こうした美術史家同士が共有する問題における連帯、そして国境を越えた省察のためのネットワークでもあります。

TEAMのネットワークを通し、現在までに17名のメンバーと80名の学生(修士・博士)が、世界5大陸にわたる研究を行っています。また日本からは、大阪大学大学院人文学研究科の中嶋泉准教授が参加しています。

### 数字で見るAWARE

18世紀、19世紀、20世紀の女性アーティストのための、1つのウェブサイト。  
3,600冊以上の蔵書を持つ、パリにある  
1つの図書館とリサーチセンター

2つのポッドキャスト・シリーズ  
『Women House』『Great Women of Art』

3ヶ国語によるウェブサイト(フランス語、英語、日本語)

インタビューとカンファレンス記録集による、10冊の出版物

15名のAWARE 賞受賞アーティスト

20話におよぶアニメーション・シリーズ  
すべての視聴者、特に中高生や美術愛好家を対象とした31のテーマ別ガイド

100のイベント:  
2014年以来、AWARE が国際的な美術館や大学との提携により開催してきた国際カンファレンス、スタディ・デイ、座談会など

195の記事をAWAREウェブサイトのマガジン・セクションに掲載

世界中の500人の寄稿者

1,200人分のアーティスト・バイオグラフィ

数年中に2,000人のアーティストを掲載予定

毎月平均10万人のサイトアクセス

## チーム

キュレーターであり美術史家のカミーユ・モリノーが共同設立者兼ディレクターを務めるAWAREは、日本セクションに特に専念する2名を含む、国際色豊かなチーム構成をとしています。

ナタリー・リガル 理事長

カミーユ・モリノー エグゼクティブ・ディレクター

AWAREの共同設立者兼ディレクター。フランス国立高等師範学校と国立文化財研究所を卒業後、フランスの公立文化施設に20年間勤務し、うち10年間はジョルジュ・ポンピドゥー国立芸術文化センターでコンテンポラリー・コレクションのキュレーターとして勤務。同館のコレクションから女性アーティストの作品を取り上げた「elles@centrepompidou」をはじめ、数多くの展覧会を企画。2016年から2019年10月まで、モネ・ド・パリで展覧会・コレクション担当ディレクターとして従事。2022年にはパリのリュクサンブール美術館で開催された「Pionnières」の共同キュレーターをルシア・ペサパネとともに務める。

ニーナ・ヴォルツ 国際プログラム責任者

マチルダ・タシツカ 研究プログラム責任者

マヌエラ・ダネスク 管理部門責任者

## AWARE日本セクション

天田万里奈 AWARE日本代表

AWARE日本代表。インディペンデント・キュレーター、アート・プロジェクト・プロデューサーであり、国際的なアート・キュレーターや専門家と協力して日本の多様性を推進する非営利団体Spectrumの共同設立者。第7回「KYOTOGRAPHIE京都国際写真祭」では、チーフ・オペレーティング・オフィサーを務める。慶應義塾大学法学部政治学科卒業後、Institut d'Études Supérieures des Artsでの修士を経て、国際金融と公衆衛生に10年以上携わり、国際経営管理の分野で豊富な経験を持つ。

山崎みづ穂 リサーチプロジェクト・マネージャー

AWARE日本リサーチプロジェクト・マネージャー。ニューヨーク大学大学院博物館学専攻修了。東京国立博物館、ニューヨーク近代美術館 MoMA PS1、ソロモン・R・グッゲンハイム美術館(アブダビ・プロジェクト)、森美術館を経て、現在はパリにあるシテ・アンテルナショナル・デ・ザールにレジデントとして滞在。ライター、リサーチャー、キュレーターとして、パリ、東京、香港で数多くの展覧会を企画し、『Le Quotidien de l'Art』『KeMCo Review』『REAR』などに寄稿。



Camille Morineau © Valerie Archeno



Marina Amada © Marie Liesse



Mizuho Yamazaki © Manuel Abella

## AWARE について

AWARE: Archives of Women Artists, Research & Exhibitionsは、2014年に設立された非営利団体です。

AWAREはさまざまな国や地域を扱うチームを組み、18世紀、19世紀、20世紀の女性アーティストたちを可視化するため、彼女たちの功績についてのコンテンツをフランス語と英語の2か国語で作成し、ウェブサイトで無料公開しています。

AWAREは、世界中の500人以上の研究者、キュレーター、フェミニスト美術史家、美術評論家やアクティビストによって書かれたテキストを通して、多様な声を代弁しています。このウェブサイトのデータベースは1664年から1974年の間に生まれ、視覚芸術の分野で活躍する女性およびノンバイナリーのアーティストを、表現媒体や国の制限なく集めています。研究記事とインタビューは、これらのアーティストの経歴と作品を、大きな芸術運動、社会の変化、フェミニスト思想の文脈に当てはめることによって、より深く理解することを可能にします。このサイトは、美術の専門家や教育者とともに、美術の歴史に興味を持つすべての人を対象としています。

特に注意を払っているのが、質の高い情報へのアクセスのしやすさです。美術史の主要なテーマに焦点を合わせたものや、子ども向けのアニメシリーズ、ポッドキャストなど、女性アーティストの人生や作品を発見したり、より深く理解したりするためのさまざまな方法を提供しています。

AWAREはまた、女性アーティストやジェンダー学についての調査研究を広く普及させるために、国際的な機関、大学、美術館、その他の独立した組織と連携し、シンポジウムや座談会、セミナーを開催し、独自の出版物を編集しています。さらに、フランス文化省とのパートナーシップのもと、女性アーティストのための「AWARE賞」を2016年に創設し、毎年、中堅アーティスト1名と40年以上のキャリアを持つアーティスト1名に授与しています。その目的は、これまで芸術的キャリアが十分に評価されてこなかった女性アーティストに敬意を表するとともに、現代の芸術創造を促進することです。

AWAREの拠点は、パリ15区のヴィラ・ヴァシリエフにあります。1910年代にアーティストのマリー・ヴァシリエフがアトリエを構えていた場所で、その非常に象徴的な空間をデザイナーのマタリ・クラッセが改装し、AWAREはここに女性アーティストとフェミニズム芸術に特化した研究・資料センターを設立しました。レジデンシー・プログラムやイベント、会議、学校団体向けのワークショップもこの場所を使って開催しています。こうした事業によってパリ近郊からの訪問者、専門家、アーティストを結びつける一方、世界規模の研究プログラムや著述家の膨大なネットワークが活用されています。この地域的かつ国際的な二重のアイデンティティと、一般に開かれたスペースであることによって、AWAREはジェンダーの問題や歴史における女性アーティストの認知をめぐる研究、交流、議論を促進することを目指しています。



© Margot Montigny

### Press Contact

Agence Dezarts

Manon Vaillant : 06 47 66 86 07

Noalig Tanguy : 06 70 56 63 24

agence@dezarts.fr

### Practical information

AWARE

Villa Vassiliev

21 avenue du Maine

75015 Paris

awarewomenartists.com

By appointment:

documentation@aware-art.org

01 55 26 90 29

### Social Media

Twitter, Facebook et Instagram

@AwareWomenArt